

## 全般的に悪化傾向目立ち、来期も続く見込み

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第1四半期（平成29年4～6月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成29年5月15日

- 調査対象時期

平成29年4～6月期状況、平成29年7～9月期見通し

- 調査回答企業数

39社：建設業7社、製造業7社、卸売業8社、小売業9社、サービス業8社（回収率78%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

### 【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（29年1～3月期）では、バラツキがあったものの一部業種では好転がみられたが、今期（29年4～6月期）では全産業合計の業況D I（前年同期比）では全般的に悪化している。業種別でも、小売業を除き悪化しており、小売業においてもかなりの悪化のままの推移となっている。

先行きについては、全体としてはわずかな好転となるものの、回復の足取りは重いものと予想している。業種別にみると、建設業では横這いを見込み、製造業ではかなりの悪化のままの横ばいを予想。その他の業種では好転を見込むもののマイナス域にとどまるものと予想している。

- 今期（29年4～6月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（29年1～3月期）と比較して18.8ポイント悪化し、D Iは $\Delta 41.0$ となっている。

業種別の業況をみると、建設業では14.3ポイント悪化しているもののD Iでは $\pm 0.0$ にとどまっている。卸売業では37.5と大幅に悪化し、D Iでは $\Delta 25.0$ とマイナスに転じている。小売業では18.1ポイント好転しているものの、D Iでは $\Delta 44.4$ と悪化のまま推移。製造業とサービス業も悪化し、D Iでは夫々 $\Delta 71.4$ 、 $\Delta 62.5$ と悪化のまま推移している。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、前期（29年1～3月期）と比較して23.9ポイントの悪化となり、D Iでは△46.1まで落ち込んでいる。

業種別にみると、建設業では14.3ポイント、製造業では17.1ポイント好転しているものの、D Iでは夫々△28.6、△42.9にとどまっている。サービス業では12.5ポイント悪化し、D I △25.0となっている。卸売業では62.5ポイントと大幅に悪化し、D Iでは△37.5とマイナスに転じている。小売業でも51.4ポイントと大幅に悪化し、D Iでは△88.9となっている。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期（29年1～3月期）と比較して、9.1ポイントの悪化となり、D Iでは△40.5とマイナス域が拡大している。

業種別にみると、建設業とサービス業では前期と変化なく、D Iでは夫々△42.9、△37.5とマイナス域での推移となっている。卸売業では1.8ポイントとあまり変化なく、D Iでは△14.3となっている。製造業では33.3ポイントと大幅に悪化し、D Iでも△33.3まで低下している。小売業では16.7ポイントの悪化となり、D Iでは△66.7とマイナス域が拡大している。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（29年1～3月期）と比較して、5.7ポイントの好転となったものの、D Iでは△21.6となっている。

業種別にみると、製造業では50.0ポイントと大幅に好転しD Iでは±0.0まで戻している。建設業でも14.3ポイント好転し、D Iでは△14.3となっている。サービス業でも14.3ポイントの悪化となり、D Iでは△14.3となり、小売業では6.9ポイント悪化し、D Iでは△44.4とマイナス域が拡大している。

## ●来期(29年7～9月期)の見通し(前年同期比)

全産業合計の業況D Iは今期（29年4～6月期）と比較して9.5ポイントとやや好転する見通しとなっているが、D Iでは△31.5とマイナス域のまま推移するものとみている。

業種別にみると、サービス業では37.5ポイントと大幅に好転するものの、D Iでは△25.0にとどまる見通しで、同様に小売業も22.2ポイント好転するもののD Iでは△22.2にとどまる見通し。卸売業では17.9ポイント悪化し、D Iでは△42.9となっている。建設業・製造業では変化しないものの、建設業はD Iで±0.0となっているが、製造業では△71.4と大幅なマイナス超過が続く見通しとなっている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、今期（29年4～6月期）と比較して10.2ポイント好転するものの、D Iでは△35.9と悪化のまま推移する見通し。

業種別にみると、小売業では66.7ポイントと大幅に好転するものの、D Iでは△22.2にとどまっている。サービス業でも12.5ポイント好転し、D Iでは△12.5まで戻す見込み。建設業は前期と変化なく、卸売業は12.5ポイント悪化し、D Iでは△50.0、製造業でも28.5ポイント悪化し、D Iでは△71.4まで落ち込む見通し。

## 〔採 算〕

全産業で見ると、今期（29年4～6月）と比較して5.4ポイントと僅かに好転するものの、D Iでは△35.1にとどまる見通しとなっている。

業種別にみると、小売業では22.3ポイント好転するものの、D Iでは△44.4に、サービス業でも12.5ポイント好転するものの、D Iでは△25.0にとどまる見通し。建設業と製造業はともに変化ないものの、D Iでは夫々△42.9、△33.3とマイナス域で推移する見通し。卸売業は14.3ポイント悪化し、D Iでは△28.6となる見込みとなっている。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期（29年4～6月期）と比較して2.7ポイントの好転とあまり変化なく推移する見通し。

業種別には、サービス業では14.3ポイント好転し、D Iも±0.0まで回復。製造業では変化なくD I ±0.0を予想。小売業では11.1ポイント好転するものの、D Iでは△33.3にとどまる見込み。建設業でも変化なく、△14.3で横ばい。卸売業では12.5ポイント悪化し、D Iでも37.5まで落ち込む見通しとなっている。

## ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期（29年4～6月期）は25.0%の実績で、前年同期（28年4～6月期：26.3%）や前期（29年1～3月期：20.0%）と同様に比較的活発化した状況が続いている。投資状況を業種別で見ると、建設業の57.1%をはじめ製造業42.8%、卸売業25.0%と活発に行われている反面、サービス業では0.0%となっている。来期についても全体で17.5%となっており、比較的活発に推移する見通しとなっている。

## ●経営上の問題点

建設業では、前回2位の「下請業者の確保難」が1位となり、「材料価格の上昇」、「請負単価の低下・上昇難」、「従業員の確保難」が2位となっている。製造業では「需要の停滞」が前回と変わらず1位で、2位には「原材料価格の上昇」、3位には「製品ニーズの変化への対応」等が入っている。卸売業では、1位「需要の停滞」に変化はないものの、2位には「新規参入者の増加」が入っている。小売業では前回2位の「購買力の他地域への流出」が1位となっている。サービス業では、前回1位の「熟練従業員の確保難」とともに、「需要の停滞」が入っており、前回1位の「利用者ニーズの変化への対応」が2位となり、3位には「人件費以外の経費の増加」が入っている。

## 業 種 別 D I 値 表 平 成 29 年 4 ～ 6 月 期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資 金 繰 り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全 産 業	39	△41.0	△31.5	△46.1	△35.9	△40.5	△35.1	△21.6	△18.9	△12.8
建 設 業	7	0.0	0.0	△28.6	△28.6	△42.9	△42.9	△14.3	△14.3	0.0
製 造 業	7	△71.4	△71.4	△42.9	△71.4	△33.3	△33.3	0.0	0.0	△50.0
卸 売 業	8	△25.0	△42.9	△37.5	△50.0	△14.3	△28.6	△25.0	△37.5	25.0
小 売 業	9	△44.4	△22.2	△88.9	△22.2	△66.7	△44.4	△44.4	△33.3	△33.3
サービ業	8	△62.5	△25.0	△25.0	△12.5	△37.5	△25.0	△14.3	0.0	△11.1

① 前年同期(平成 28 年 4 月～6 月)と比較した今期(平成 29 年 4 月～6 月)の状況

② 前年同期(平成 28 年 7 月～9 月)と比較した来期(平成 29 年 7 月～9 月)の見通し

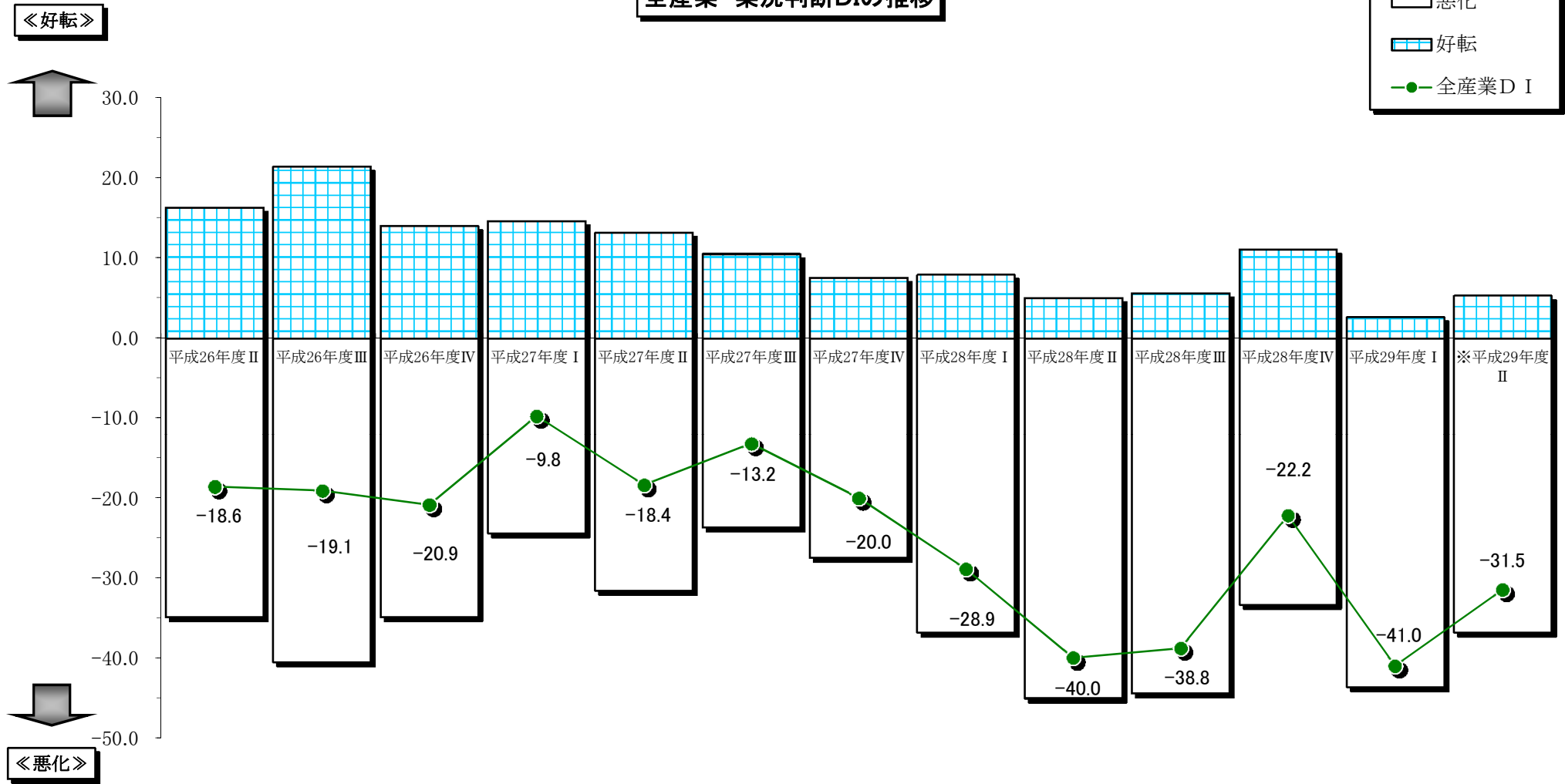
### 直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	下請業者の確保難	材料価格の上昇／請負単価の低下・上昇難／従業員の確保難	人件費の増加／下請単価の上昇／官公需要の停滞／民間需要の停滞
製 造 業	需要の停滞	原材料価格の上昇	製品ニーズの変化への対応／生産設備の不足・老朽化
卸 売 業	需要の停滞	新規参入業者の増加	メーカーの進出による競争の激化／仕入単価の上昇
小 売 業	購買力の他地域への流出	消費者ニーズの変化への対応／需要の停滞	大型店・中型店の進出による競争の激化
サービ業	熟練従業員の確保難／需要の停滞	利用者ニーズの変化への対応	人件費以外の経費の増加

設備投資を今期実施した                      25.0 %

設備投資を来期計画している                17.5 %

# 全産業 業況判断DIの推移



## 【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成28年4～6月）と比較した来期（平成29年4～6月）の見通し